令和３年度　新潟市新バスシステム事業評価委員会　議事要旨

■日時：令和 3 年 11 月 30 日（火）　9：30～11：30

■場所：中央区役所 5 階 対策室

■出席者（敬称略）

委員

樋口 秀（新潟工科大学 建築・都市環境学系　教授）
鈴木 文彦（交通ジャーナリスト）
能登谷 巌（新潟商工会議所 常務理事）
兼平 朋美（一般社団法人新潟青年会議所）
後藤 岩奈（新潟市区自治協議会会長会議 座長）
山崎 智美（NPO 法人ワーキングウイメンズアソシエーション）
横尾 文子（NPO 法人まちづくり学校）

■議事概要

半数以上が新たに就任した委員であることから、これまでの新バスシステム事業や評価委員会について事務局から説明を行い、コロナ禍の状況や今後の委員会の進め方について共有した。

１．委員長選出

樋口 秀（新潟工科大学 建築・都市環境学系　教授）委員を委員長に選出。

２．議事

(1)新バスシステム・ＢＲＴ導入の経緯について（資料 1～資料 3）
(2)新バスシステム事業評価委員会について(資料 4～資料 6)
(3)新型コロナウイルス感染症の影響とその対応について(資料 7～資料 8)
(4)新バスシステム事業評価委員会の進め方について（案）(資料 9)

【(1)～(2)に対する主な意見】

・最終評価の附帯意見を受け、新潟市はどのように進めてきているのか。本委員会では附帯意見をどのように扱っていけば良いのか。
　⇒事務局回答：附帯意見については、改善などの様々な取り組みによって対応している。その内容などについても今後、本委員会で意見を伺えればと考えている。
・市民から交通事業者への意見を伺うことがあるため、本委員会でも共有させてもらい、活発な意見交換が行えればと考える。
・BRT=連節バスというイメージであったが、この取り組みは全市的なバス再編にかかる取り組みであることが分かった。
・人材活用の観点から高齢者や女性も運転しやすい小型バスの運用を視野に入れればよいと考える。

【(3)～(4)に対する主な意見】

・資料７で紹介されている、ＷＥＢサイト「デキはじ」について、バスの待ち時間の過ごし方の提案ということで、非常に良い視点だと感じた。例えば、地元の中学生に携わってもらうなどして学びの場となるものにするなど、地域の力も活用できればと考える。

・バス利用者が減少した原因として、利用者のなかで、公共交通を利用することによるコロナ感染への不安があると考えられる。感染症対策は各社万全であるため、行政が利用者に対し、コロナの感染の心配がない旨の周知を図ることが大切であると考える。
・連節バス＝基幹バスの全てというイメージとなりがちであるが、実際には単車バスもＢＲＴ路線を運行しており、今後、単車バスを使ったイメージアップが大事であると考える。
・新しい生活様式の浸透により、リモートワークなど勤務形態の変化なども常態化しており今後、総走行距離数の 957.7 万キロを維持していくのは相当困難なのではないか。

以上